

## ・透析療法ってどういうもの？

働きの低下した腎臓の代わりに、血液をきれいにする治療法で、最も一般的でよく知られているのは血液透析です。

腕の血管から血液を体外に取り出し、透析器できれいにした血液を再び体内に戻します。**1回4～5時間、週3日**ほど、専門の医療機関に通院する必要があり、体調不良を伴うこともあります。

糖尿病性腎症は、新たに透析療法が必要となった原因の病気**第1位**で、全体の**4割以上**を占めており、年々増加しています。

透析治療は一度始めると、**一生続けていかなければなりません。**



糖尿病性腎症になったら透析が必要なのか。  
こわいなあ。



**いいえ！**

早期の段階で気づき、  
治療を始めれば進行を遅らせることができます。

## ・早期発見が予防のカギ

糖尿病性腎症は**自覚症状なく**進行します。

“手足のむくみ”などの症状が現れるころには、進行を抑えることが難しくなり回復は困難となります。

早期発見・早期治療を行うには、

**定期的な健診・受診 + その後の血糖コントロールが重要**となってくるのです。



## 糖尿病性腎症を早期発見する検査



**尿検査**

・尿たんぱく値

※微量アルブミン尿検査

たんぱくが検知されない段階でも、微量アルブミン尿が検知されれば腎機能の低下がわかります。



**血液検査**

・eGFR(血清クレアチニン値から計算)  
正常な腎臓の機能を100として、腎臓の機能がどのくらい残っているかを示しています。



自分で行えるチェックは、むくみ、血圧上昇、だるさなどの小さな変化を見逃さないことです。  
変化があったときにはすぐに主治医に相談しましょう。